



中丹

農業改良

普及センターだより

家族以外の後継者を育ててみませんか

～経営資産の散逸を防ぎ、

新たな人材につなげましょう～



(左) 移譲者、綾部市岩崎保さん
(右) 継承者、村松健さん(農大卒)

題に悩んでおられる方が増えていきます。一方、非農家で農業を始めたいという人も年々増加していますが、就農のためには資金や経験、農地や住居の確保といった課題があります。普及センターでは、農家の皆さんが所有する農地や機械施設だけではなく、裁

中丹地
域では、
農業者の
高齢化が
進み、家
族や親戚
からも後
継ぐ者
が無く、
後継者問

培技術や経営管理のノウハウ、販路などを含めて「経営資産」としてとらえ、これらを受け継ぐ新しい人材を外から受け入れる「第三者への農業経営継承」を進めています。

当地域では、平成20、21年度にそれぞれ1人の新規就農希望者が経営移譲希望者のもとで2年間の研修を始めました。

後継者問題
に悩んでおられる方は、ぜひ、普及センターにご相談ください。



指導者として農業技術を教える

京都府中丹広域振興局農林商工部

◆発行◆
平成21年8月

にし 中丹西農業改良普及センター

【担当地域：福知山市】

〒620-0055 福知山市篠尾新町1-91

TEL 0773-22-4901

e-mail:chushin-no-nishi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

ひがし 中丹東農業改良普及センター

【担当地域：舞鶴市・綾部市】

〒623-0012 綾部市川糸町丁島10-2

TEL 0773-42-2255

e-mail:chushin-no-higashi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

新しい山ブキ栽培技術



ダゾメット剤を全面散布

要があります。最近、被覆するビニールのかわりに一般のポリマルチ(0.03mm)を使用した場合、取り除かなくても徐々にガスが抜けていくこ

中丹地域では休耕田等を利用した山ブキの栽培を推進していますが、栽培した初期に雑草に負けてしまい栽培を放棄する事例も見られます。

そこで、除草作業の軽減と安定した山ブキ栽培のため、昨秋より土壌消毒剤を利用した栽培方法を実証しましたので、その概要を紹介いたします。

山ブキの雑草対策

「マルチ畦内処理」

とがわかりました。そこでより簡便な使用方法として、薬剤を混和後ポリマルチを被覆し、そのまま約1ヶ月放置し、レタスの発芽試験でガスが抜けていることを確認後、植え付け

作業の流れ

- ①土壌消毒 5日前に荒起こし
- ②ダゾメット剤(30kg/10a)を全面散布
- ③トラクター(耕うん機)で畝立て
- ④黒マルチ(0.03mm)を被覆
- ⑤処理後21日後、30日後、40日後にレタス発芽試験
- ⑥ガス抜き確認後、ブキの株を植付け

【注意事項】

ダゾメット剤は水と反応してガス化するので作業中はマスクを必ず着用すること。

【効果を高めるために】

- ①薬量(30kg/10a)を遵守する。
- ②消毒前の荒起こしで土壌を細かくしておく。(雑草が多い場合は数回行い枯らしておく)
- ③消毒時の土壌水分が高い場合は速やかにマルチを被覆する。

を行う「マルチ畦内処理」をブキ栽培に応用しました。

現在、福知山市内3地区(夜久野町・榎原・長尾)合計45aで取りこんであり、ほ場にもよりですがマルチ穴から雑草はほとんど生えず、農家の方からも喜びの声をいただいています。

山ブキを栽培したい方は普及センターへご相談ください。



黒マルチで被覆

茶生産におけるGAPの取り組み

GAPとは、「農業生産工程管理」のことです。生産の全行程にわたって衛生管理をチェックし、記録することによって、農産物の安全性と品質を高めることを目的としています。

宇治茶の生産においては、以前から生産記録簿の整備等「清浄茶生産」の取り組みを行っていましたが、中丹地域では更なる安全性と品質の向上を目指して、昨年度からJ A京都にのくに茶部会と一緒に「中丹版茶GAP」の取り組みを行っています。

昨年策定した「中丹版安心安全茶生産マニュアル」に基づき、今年はチェックシートへの記帳に同茶部会全体で取り組みました。

山城地域でも同様の取り組みが行われており、宇治茶の安全性が更に高まることが期待されます。



異物混入検査

チェックシート

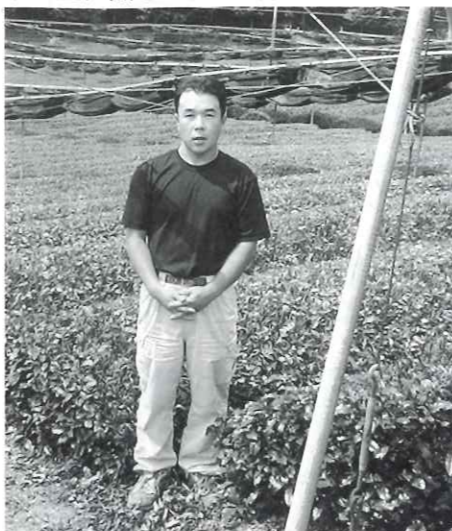
頑張る中丹の担い手

中丹地域で頑張っておられる新規就農者を連載で紹介しています。

新規就農者

綾 部市館町で2年間の実践農場研修を修了して就農された櫻井喜仁さんを紹介いたします。

櫻井さんは大阪府出身で、平成19年2月から綾部市館町で研修を開始し、今年2月、正式に就農されました。経営の主な品目はお茶です。



【質問】今年のお茶の成果はどうでしたか。
【答え】だいたい計画していたとおりの売上が上げられましたが、刈り取りが早かったり、遅かったりして、収量や品質に影響した茶園もあり、やはりようによっては

もつと儲けられたなと思いました。一番茶のときは、前年の夏の茶園管理が大きき影響があるので、忙しい茶の時期が終わってホッとするのでなく、夏に乾燥しすぎないように、管理をおろそかにできないなと思いました。

【質問】今後の経営の方向は。

【答え】茶の面積は80aとなり、ようやく生活できる面積になりつつあります。今後地元茶園を引き受けて、少しずつ面積を増やしていきたいと思っています。

お茶と組み合わせられる作物も模索しています。今年からは紫ずきんを栽培するので、お茶に次ぐ経営品目とならないかと期待をしています。



農事組合法人かわいい

中山間地域の組織担い手

組織担い手

福 知山市三和町の川合地域で今年1月に設立された「農事組合法人かわいい」の小原代表理事に法人設立に至る経緯と現在の取組についてお話を伺いました。

近年、過疎化や農家の高齢化により、耕作放棄地が増えており、地域の農地を守るためには法人化する必要があることから話し合いを重ね、地域の営農組織「川合地域農場づくり協議会」を母体に、協議会の作業部会と園芸部会を独立・法人化されたものです。

事業内容は、農作業受託や水稻栽培・小豆の機械化栽培が中心で、その他に都市農村交流としてJ RやN P O 法人と共同で小豆の莢ほり体験を開催したり、イベント等での即売などの活動をしています。こうした活動により、三和町の「川合」をより多くの人に知ってもらい、さらには販売ルートの拡大につながればと期待しています。

地域ではばたく 京野菜の新しい担い手

—京野菜新規栽培セミナーを受講して—

京野菜新規栽培セミナーは今年も開催予定です！

大槻高広さんの農家としてのスタートは、結婚し、子供の将来を考えたとき、自然や自分に正直に向き合える農業を一生の仕事にしようと決意されたことから始まります。

その後、平成19年「京野菜新規栽培セミナー」を受講され、それまで分からなかった作物ごとの栽培基礎技術を学び、就農時の栽培計画に役立てられました。

現在は就農2年目で、万願寺とうがらし10a、椎茸2aの栽培をされています。昨年よりも栽培の要領をつかめたことから、作業時間を大幅に短縮することができました。

就農するまで15年続けたコンピューターエンジニアという職と比較すると、家族で過ごす時間が大幅に増え、体も健康になったと喜んでおられます。しかし農業は基本的に自己責任であり、「頼れるのは自分だけ」と、日々の研鑽に余念がありません。

今後の目標は、自分にあった品目を組み合わせて経営していくこと、三和町の環境と風景を子供や孫に伝えていくことだそうです。



大槻高広さん(福知山市三和町)

中丹の食・地場野菜

「秋・冬メニュー」で初めて認定を受け、今年「春・夏メニュー」として更新し、継続されています。



おばんざい弁当(秋・冬メニュー)

認定期間は6ヶ月で、昨年

「手づくり弁当」は野菜120g以上・塩分相当3・5g以下など8項目の厳しい認定基準をクリアしています。舞鶴産の野菜をたくさん使用し、昆布やじゃこで丁寧にとった「だし」の旨みを生かした、地域の伝承料理「五目御飯」や「煮しめ」等を組み合わせた健康的なメニューです。



舞鶴農林漁業加工委員会「ふれあい工房」では、地域特産物を利用した農産加工を行っています。

その一つとして、「手づくり弁当」の仕出しに取り組み、京のおばんざい弁当普及推進協議会の「健康ばんざい京のおばんざい弁当」の認定を受けました。

今年度も「農家体験」講習会を開催します！

農業・農村に親しむ機会を作りませんか。田植え、草刈り、収穫、山菜つみ、そば打ちなど。

わが家の農作業や暮らしを都市住民などに体験してもらうために必要な知識、方法について講習します。

7月に第1回を開催し、8～11月に月1回ずつ開催予定です。参加農家を募集しています。

この度、新たに9名の農家が取得され、協議会員75名中、エコファーマーが35名となり、福知山市の学校給食への「環境に配慮した安心安全な地場農産物」の供給をさらに充実させていきたいと意欲的です。

この度、新たに9名の農家が取得され、協議会員75名中、エコファーマーが35名となり、福知山市の学校給食への「環境に配慮した安心安全な地場農産物」の供給をさらに充実させていきたいと意欲的です。

福知山地場野菜生産出荷組合連絡協議会では、会員のエコファーマー取得に積極的に取り組んでいます。

学校給食用の野菜はエコファーマーが供給